

【生薬名】生姜 *Zingiberis Rhizoma*、干生姜(干姜)㊦

【起源植物】ショウガ *Zingiber officinale*



【科名】ショウガ科 *Zingiberaceae*

【別名】クレノハジカミ、ツチハジカミ

【薬用部分】漢方では生のヒネショウガを使うが無ければ新ショウガで代用
生姜：生の根茎のこと、干生姜：刻んでそのまま干したショウガ

【主成分】辛味成分ジンゲロール、ショウガオール、ジンゲロンなど

【薬性】気味は辛温、帰経は肺脾胃に属す

【効能】●発汗解表・温中止嘔・解毒

●漢方では風邪、健胃、消化促進、鎮痛に使う

●小半夏加茯苓湯はつわりなどの吐き気の特効薬として有名

●カール・ルイスがショウガエキスを膝関節痛に使って以来注目されている(アミノピリンと同程度の鎮痛作用という)

●腰痛や五十肩、肩こりに絞り汁を患部に温湿布(かぶれに注意)

●生姜・干生姜は、健胃、鎮嘔吐、発汗、駆風、咳などの外感病に1日5～6gを煎服する。

●ショウガ湯は風邪の初期に飲むと体が温まるし、汗が出て軽快する事も多く、咳や喘息等にも良い

●吐き気のある時はショウガの汁を飲むと胸がスッキリとする

【出典】●生姜 性温、神明を通暢し痰嗽、嘔吐、胃を開き靈を極む。(薬性歌)

●主治嘔、故兼治乾嘔噎噦逆(薬徴続編)

【備考】●生姜は外感病に、乾姜は裏寒の病に対して用いる

●古来漢方処方方で用いられる生姜はいわゆる鮮姜の事で生のヒネショウガをそのまま用いる

●生姜汁は辛微温で、化痰・止嘔の効があり悪心・嘔吐・咳嗽・痰が多いなどに用いる、3～10滴を沖服する、新鮮なほど良い

【処方例】●様々な処方に配合されている

●生姜瀉心湯、小半夏加茯苓湯